

宇都宮市立今泉小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
目標(めあて・ねらい)の共有化と振り返る時間の確保	児童が意欲をもって授業に取り組めるような学習課題を設定していく。また、児童が課題を受け止め、見通しをもって学習に取り組み、授業の終わりには自らの学習を振り返る時間を確保できるようにする。	3年生以上の設問、「学校の授業が分かりますか」において、肯定的に回答した児童はどの学年も96%以上で市の割合より高い。しかし、「勉強が好きか」という項目や各教科の学習において、「好き」と答えた児童の割合に学年間でバラつきが見られた。高学年の国語や算数など、「あまり好きではない・好きではない」と答えた児童の割合も低くなく、今後の課題である。
コミュニケーション能力の向上を目指した授業の工夫	授業の中で多様な形態で、自分の考えと友達の考えとを向かい合い、対話できるような場面を設定していく。また対話を通して学び合い、自分の思いや考えを表現できるような児童を育成していく。	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」と肯定的に回答した児童の割合は、どの学年も8割を超え、児童が積極的に話し合いに参加するなど、主体的に学習に取り組んでいる様子がうかがえる。一方、3年生以上の設問で、「自分の考えを理由や根拠をあげながら話すことができる。」と肯定的に回答した児童の割合はおよそ7割で、他の設問と比較するとやや低い傾向が見られた。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・4～6年生ともに、国・県・市の調査において、各調査の平均正答率を上回り、良好な状況がうかがえた。学校として「自ら考えて進んで学び合う児童の育成を目指して～主体的参加を促す授業デザインの工夫～」を研究主題に据え、授業実践研究に取り組んできたが、次年度においても、児童の主体的な学習を促進できるよう、児童の意欲を引き出し、学ぶ楽しさや分かる喜びを味わい、児童が主体的に学習することができるよう努めていく。また「自分の考えを理由や根拠をあげながら話す。」という項目に課題が見られたことから、授業の中で、今後も互いに考えを伝え合う場を積極的に設定していくとともに、自分の考えが相手にうまく伝わるような資料や文章、話の組立ての工夫などにも目を向け、指導していく。

・国、県、市の調査の各教科に共通して、問題や資料から読み取って理解したことなどを自分の言葉で説明するという記述式の設問においてやや課題が見られた。授業等で資料をもとに読み取ったことを説明したり、書いて表現したりするなど、言語活動の充実を図っていく。